

## 三河湾で絶滅危惧種の二枚貝ウミタケの生息を確認

西 浩孝\*

### A new record of endangered bivalve, *Barnea (Umitakea) dilatata* from Mikawa Bay

Hiroataka Nishi \*

#### はじめに

ウミタケ *Barnea (Umitakea) dilatata* は内湾に生息するニオガイ科の二枚貝である。他のニオガイ科二枚貝は岩石や木材など硬い基盤に穿孔して生活する穿孔性二枚貝であるが、ウミタケは泥底に潜入生活を行い、成貝の潜入深度は約 1m に達する（波部, 1977 ; 伊藤・山口ほか, 2003）。寿命は 1 年ないし 2 年である（伊藤・川原ほか, 2003）。

ウミタケは日本, 朝鮮半島, 台湾, 中国, 東南アジアに分布し, 国内では房総半島以南, 瀬戸内海, 有明海に分布する（木村, 2009 ; 熊本県希少野生動植物検討委員会, 2009）。有明海では漁獲対象種となっており（魚住, 1974）, 繁殖生態や人工飼育に関する研究も行われている（Yamasaki, 1993 ; 伊藤・川原ほか, 2003 ; 伊藤・山口ほか, 2003）。しかし, 有明海以外での最近の記録はきわめて少ない（加藤・福田, 1996）。愛知県周辺では, 松本（1979）が三重県の津および有瀧（伊勢市有瀧町）を産地として挙げているほか, 石山（1970）が伊勢湾内において「死貝はあるが生貝はまれである」と報告している。また, 豊橋市自然史博物館に収蔵されている中山清コレクションおよび山崎芳江コレクションの中には「一色」産のウミタケが各 1 点存在するが, 一色漁港（幡豆町）は底引き網漁を行っている漁港であり, 漁場は伊勢湾, 三河湾, 湾口部, 渥美外海と広範囲に及ぶ（中島, 1968）。これらのウミタケも底引き網漁の漁屑から採れたものと推測されるため詳細な生息地は不明であり, また採

集日も記録されていない。近年では 1997 年に伊勢湾湾口部で死殻の破片が 1 個体採集されたのみで生貝が確認されておらず, 愛知県のレッドデータブックでは絶滅のおそれの最も高い絶滅危惧 IA 類と判定されている（木村, 2009）。また, 加藤・福田（1996）では「危険」にランクされている。

筆者は愛知県豊橋市の三河湾の干潟において, 本種の生貝を確認したので報告する。

#### 採集地の状況

保全上の理由により, 詳細な採集地点の公表は行わない。

調査を行った 2009 年 7 月 22 日は大潮であり, 調査時は干潟が干出していた。二枚貝の採集のため, 干潟の砂泥をスコップで掘り起こしたところ, 深さ約



第 1 図. 掘り出したウミタケの生貝 (TMNH-MO 16033)。

\* 豊橋市自然史博物館. Toyohashi Museum of Natural History. 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi, Aichi 441-3147, Japan.

原稿受付 2009 年 12 月 8 日. Manuscript received Dec. 8, 2009.

原稿受理 2009 年 12 月 9 日. Manuscript accepted Dec. 9, 2009.

キーワード: ウミタケ, 絶滅危惧種, 二枚貝, 三河湾, 干潟.

Key words : *Barnea (Umitakea) dilatata*, endangered species, bivalve, Mikawa Bay, tidal flat.

30cm ~ 40cm の砂泥中から長い水管をもつウミタケを発見した。殻は非常に薄く、破損していた。そのため、さらに周辺を注意深く掘り起こし探索した結果、完全な追加個体を得ることができた（第1図）。

## 標 本

破損しなかった個体は、殻長 34.8mm、殻高 18.1mm（第2図）。本種は最大 80mm になることから、今回採集された個体は幼貝と考えられる。

標本は殻の乾燥標本および 99 % エタノール液浸標本として豊橋市自然史博物館貝類資料として登録・保管されている（資料登録番号 TMNH-MO 16033, 16034）。

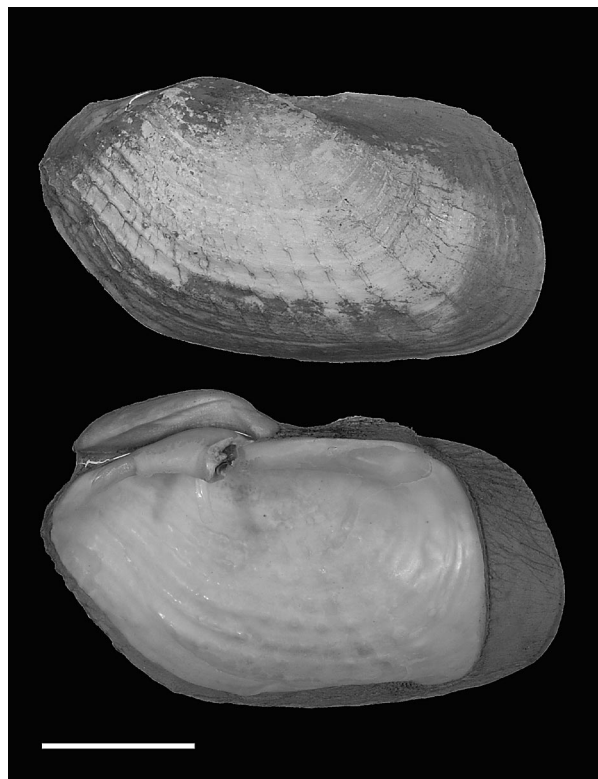
## 考 察

三河湾の干潟において、愛知県では近年生貝が発見されていなかったウミタケの生息が確認された。この干潟ではこれまでも底生生物調査が行われているが、ウミタケは泥底に深く潜っているため採集が困難であり、また、生息密度が低いことや、パッチ状に分布することも考えられ、見落とされた可能性が高い。しかし、アサリの種苗に混入するなどして、最近になって有明海や海外から移入した可能性も否定できない。検証するには分子系統地理学的な研究が必要である。

先述のとおり、ウミタケは絶滅危惧 IA 類に指定された希少な生物である。現段階では、この干潟におけるウミタケの生息密度や分布範囲は不明である。今後、生息状況を把握することが必要である。

この干潟にはウミタケ以外にも希少種が生息している可能性がある。干潟の底生生物調査においては、干潟主部を対象にライトランゼクト法やコドラート法による定量調査が行われることが少なくないが、希少種は限られた生息地に飛び飛びに分布することが多いため、このような定量調査では希少種調査を兼ねることはできないと指摘されている（菊池, 1999）。また、深度 15cm までという環境調査の一般的マニュアルにある基準では、深く潜る生物を見落とすことが指摘されている（菊池, 1999）。今後、パッチ状に分布したり、深く潜るような底生生物の生息状況を把握するため、定性調査を実施することが期待される。

この干潟は現在のところウミタケの県内唯一の生息地である。三河湾の干潟は 1945 年から 1978 年までの



第2図. 標本写真 (TMNH-MO 16033).

上：左殻，下：右殻。スケールバーは 1cm。

間に 48.0 % 消失し（東洋航空事業株式会社, 1980）、その後その 12.9 % が 1991 年までに消失している（環境庁自然保護局, 1994）ことからわかるように、干潟の底生生物に対する最大の脅威は埋め立てなどによる生息地の消失である。その他、水質汚濁や貧酸素層の発生、底質のヘドロ化などにより、干潟の貝類の生存は脅かされている（愛知県, 2009）。ウミタケを保全するためには、干潟を保全するとともに、内湾の水質汚濁を防止することが望まれる。

## 謝 辞

ウミタケの現状についてご教示いただいた木村昭一氏に感謝申し上げます。

## 引用文献

- 愛知県, 2009. レッドデータブック愛知 2009 - 動物編 - . 愛知県環境部自然環境課, 愛知, 651p.
- 波部忠重, 1977. 日本産軟体動物分類学 二枚貝綱/掘足綱. 図鑑の北隆館, 東京, 372p.
- 石山尚珍, 1970. 伊勢湾・熊野灘・遠州灘方面に生息する貝類とその環境についての研究. 地調月報, 21 (2) :

81-131.

伊藤史郎・川原逸朗・大隈 齊・山口忠則・江口泰蔵・田中賢治, 2003. 明海湾奥部におけるウミタケの繁殖生態. 佐有水研報, **21** : 51-69.

伊藤史郎・山口忠則・大隈 齊・川原逸朗・津城啓子, 2003. ウミタケの浮遊幼生と稚貝飼育. 佐有水研報, **21** : 71-80.

環境庁自然保護局, 1994. 第4回自然環境保全基礎調査 海域生物環境調査報告書 (干潟・藻場・サンゴ礁調査) 第1巻干潟. 財団法人海中公園センター.

加藤 真・福田 宏, 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状—二枚貝綱. *WWF Japan Science Report*, **3** : 65-73.

菊池泰二, 1999. 有明海, 特に諫早湾の生物相及び生態学的特徴. 風呂田利夫・関口秀夫・菊池泰二・田北 徹・東 幹夫・佐藤正典, 「九州の干潟を中心とした浅海域開発と環境アセスメントの問題点」1997年秋季大会シンポジウム報告, 海の研究, **8** : 47-51.

木村昭一, 2009. ウミタケ. 愛知県環境調査センター (編), レッドデータブック愛知2009—動物編—, 愛知県環境部自然環境課, 愛知, 514.

熊本県希少野生動植物検討委員会, 2009. 改訂・熊本県の保護上重要な野生動植物—レッドデータブックくまもと2009—. 熊本県環境生活部自然保護課, 熊本県, 597p.

松本幸雄, 1979. 三重の貝類 (三重県産貝類目録). 鳥羽水族館, 三重県, 179p.

中島徳男, 1968. 三河一色の貝類採集について. 虫譜, **11** : 17-18.

東洋航空事業株式会社, 1980. 第2回自然環境保全基礎調査 海域調査報告書 海岸調査, 干潟・藻場・サンゴ礁分布調査, 海域環境調査 (全国版).

魚住賢司, 1974. 有明海のウミタケ採集記. ちりぼたん, **8** (1) : 5-11, Pl. 1, 表紙2面図.

Yamasaki, M., 1993. Reproductive cycle of the Bivalve *Barnea dilatata* in Ariake Bay. *Bull. Seikai Natl. Fish Res. Inst.*, (71) : 17-31.